

開館40周年記念Ⅱ

高畑勲がつくるちひろ展

ようこそ！ちひろの絵のなかへ

展示会期 2017年5月19日(金)～8月20日(日)

主催：ちひろ美術館



1. 帽子の少女 1970年

「ちひろさんは、子どもがしっかりと内面をもって懸命に生きている自立した存在であることを私たちに気づかせ、見事に子ども「尊厳」をとらえた稀有な画家です。

高畑勲

絵のなかに入る

「ちひろさんの絵が個性的でありながら驚くべき普遍性と大衆性を持ち得たのは、きちんと対象をとらえながらも、全てを克明に描くのではなく、見る人の想像力に訴える見事な表現を生み出したからです。見る人は、絵のなかに入っていきたくなるのです。

僕が手がけた映画「かぐや姫の物語」(2013年公開)では、本物らしさで画面を埋め尽くすのではなく、あえてラフなタッチで余白を残し、線の絵をとおして観客の想像力や記憶を呼び覚ます表現を試みました。私たちがちひろさんの画業に大きな影響を受けたことは言うまでもありません。」

絵を拡大する

「拡大された絵を、もうひとつの「原画」として、まじめに見つめ、対峙していただきたい。すると、いままで見てはいても見えていなかったものが、いろいろと見えてくるはず。小さな原画に秘められていた大きな活力が伝わって、ときには絵の中に入れていけるかもしれません。」



2. 小犬と雨の日の子どもたち 1967年
(この絵を約6倍の大きさ：H1979×W2025mmで高精細に拡大して展示します。)



拡大したちひろの絵と高畑勲 安曇野ちひろ美術館の展示室にて
海とふたりの子ども『ぼちのきたうみ』(至光社)より1973年)を約6.4倍の大きさ：H2450×w3374で高精細に拡大して展示します。



公益財団法人いわさきちひろ記念事業団

ちひろ美術館・東京

<http://www.chihiro.jp/>

TEL.03-3995-0772(業務用)

お問い合わせは、広報担当：北村・中平・武石まで



『戦火のなかの子どもたち』の原画と習作を見る高畑勲 安曇野ちひろ美術館にて



3. 焼け跡の姉弟 『戦火のなかの子どもたち』(岩崎書店)より 1973年

『あめのひのおるすばん』の驚き

1968年、ちひろは編集者・武市八十雄とともに、「絵本にしかできないこと」を目指し、「絵で展開する絵本」の制作に取り組みます。イメージと絵が先に生まれ、そこに短いことばをつける手法で少女の心の動きをとらえた絵本『あめのひのおるすばん』で、ちひろは新境地を切り拓きます。本展では、少女のイメージや雨の情感を探求した習作やスケッチもあわせて展示します。

4. カーテンにかくれる少女 『あめのひのおるすばん』(至光社)より 1968年

絵本「戦火のなかの子どもたち」と映画「火垂るの墓」

「僕は、この絵本をはじめて見たとき、描かれた子どもたちが、まさにあのときの自分だ、姉だ、と思わずにはいられなかった。11歳と9歳の私たち姉弟は、1945年6月29日、岡山空襲の火の中を逃げまどい、傷つき、黒い雨に打たれながら余熱さめやらぬ朝の焼け跡にたたずんでいたのだった。」

ベトナム戦争が激化するさなか、ちひろは戦火にさらされるベトナムの子どもに思いを寄せて、『戦火のなかの子どもたち』に取り組みました。体調を崩し入退院を繰り返しながらも、1年半を費やして習作を含む44点の作品を描き上げました。

アニメーション作品『火垂るの墓』(野坂昭如原作1988年公開)を監督するにあたり、高畑は、若い制作スタッフに『戦火のなかの子どもたち』を見せて、想像力を高めてもらい、迫真の表現を追求しました。高畑のことばとともに絵本の場面から焦土を想像すれば、戦争の虚しさと平和の尊さが響いてきます。

「心理的なものをこれほど深く表現し得た絵本というのはそれまでになかったのではないのでしょうか。50年ほど前に初めてこの絵本を見たときの驚きは、今も僕のなかに大事なものとして残っています。」



いわさきちひろ Chihiro Iwasaki 1918～1974

福井県武生市(現・越前市)に生まれ、東京で育つ。東京府立第六高等女学校卒。藤原行成流の書を学び、絵は岡田三郎助、中谷泰、丸木俊に師事。1950年松本善明と結婚、翌年長男を出産。1950年紙芝居『お母さんの話』を出版、以後絵雑誌や絵本などに、主に子どもをテーマに数多くの絵を描く。1974年55歳で没。現存する作品約9500点がちひろ美術館に収蔵されている。



高畑勲 Isao Takahata 1935～

アニメーション映画監督

1935年三重県生まれ。東京大学仏文科卒業。東映動画(現・東映アニメーション)などを経て、1985年、宮崎駿らとスタジオジブリを設立。主な監督・演出作品にTVシリーズ「アルプスの少女ハイジ」「母をたずねて三千里」「赤毛のアン」、映画「じゃりン子チエ」「セロ弾きのゴーシュ」「火垂るの墓」「おもひでぽろぽろ」「平成狸合戦ぽんぽこ」「ホーホケキョ とりの山田くん」「柳川掘割物語」「かくや姫の物語」など。そのほか「王と鳥」など海外アニメーションの日本語版翻訳・監修や『十二世紀のアニメーション』『アニメーション、折りにふれて』など著作多数。



開館40周年記念II

奈良美智がつくる 茂田井武展 夢の旅人

2017年5月19日(金)～8月20日(日)

主催：ちひろ美術館

後援：絵本学会、(公社)全国学校図書館協議会、(一社)日本国際児童図書評議会、日本児童図書出版協会、(公社)日本図書館協会、杉並区教育委員会、中野区、西東京市教育委員会、練馬区

「学校で習う美術のつまらなさは、それが自分の生活からかけ離れていたことだ。僕は絵を描いたりしているが、実を言うといわゆる名画よりも生活する中で出会ったもの、たとえば絵本から学ばせてもらったほうが多い。そして僕の好きな日本の絵本作家たちは、どこかしら茂田井武にその源流をみる気がする。果たして僕もそのひとりに違いない。彼の美意識は生活の中に息づき、それゆえ逆説的に崇高だ。彼の絵の中には西洋も東洋もなく、ただ純粋な魂だけがある。」

奈良美智



5. 絵物語「夢の絵本」より 1948年



6. 絵物語「宝船」六 1939年

戦後の混乱期の子どもの本におびただしい数の絵を描きながら、日本の絵本の隆盛期を待たずに早逝した茂田井武。その画業は大切に受け継がれ、後に続く多くの画家たちにも影響を与えてきました。茂田井が亡くなった3年後に生まれ、今まさに現代美術のアーティストとして世界的に活躍する奈良美智も、茂田井の絵に心ひかれるひとりです。

本展では、奈良美智が今も「新しい」と感じる茂田井武の作品を選び、展覧会を構成します。「人に見せるための絵よりも、自分との対話のなかで生まれる絵にひかれる」という奈良は、20代の欧州放浪中に描かれた画帳や戦時中の日記、夢から生まれた絵物語、子どもの落書きのある絵など、折々の茂田井の内面が色濃く表れた作品を選んでいきます。奈良美智の視点から、新たな茂田井武の魅力が開かれます。

茂田井 武 Takeshi Motai 1908～1956

東京日本橋に生まれる。1923年生家の旅館が関東大震災で全焼する。中学卒業後、太平洋画会研究所、川端画学校などで絵を学び、アテネ・フランセに通う。1930年シベリア鉄道で渡仏、パリの日本人会で働きながら独学で絵を描き、日々の生活を画帳に描きとめた。1933年に帰国。職を転々とした後、成人向け雑誌「新青年」などに挿し絵を描き、1941年から絵本を手がける。1946年日本童画会入会。戦後日本の復興期に絵本、絵雑誌などの仕事で活躍する。1954年小学館絵画賞受賞。48歳で亡くなるまで、病床で絵を描き続けた。

奈良 美智 Yoshitomo Nara 1959～

青森県生まれ。1988年、愛知県立芸術大学大学院修了の翌年にドイツに渡り、国立デュッセルドルフ芸術アカデミー修了。その後も、1999年までドイツに滞在して制作と活動を行う。2000年に帰国後、日本を拠点に世界中で展覧会を開催する。2001年と2012年に横浜美術館で大規模個展、また2010年にはAsia Society Museum (ニューヨーク)、2015年にはAsia Society Hong Kong Center (香港)にて個展を開催した。絵画を中心にドローイングや彫刻など幅広い表現で、国や文化背景を超えた人々と共感し支持を得る。



公益財団法人いわさきちひろ記念事業団

ちひろ美術館・東京

<http://www.chihiro.jp/>

TEL.03-3995-0772(業務用)

お問い合わせは、広報担当：北村・中平・武石まで



7. アクロバット 1932-33年頃



8. 画帳「続・白い十字架」より 1931-35年

「茂田井さんの絵をみると

おじいさんの子どものころの写真をはきだしから見つけたような
忘れかけていた宝物に出会ったような感じになる。」

茂田井は子どものころの記憶や、世界放浪の旅での印象、夢のなかの光景などを、まるで印画紙に焼き付けるように絵にしました。奈良が選ぶ茂田井の絵は、人に見せるための絵よりも、そうした自分との対話のなかから生まれた絵がほとんどです。

「茂田井さんは世界を長く旅した人だ。

茂田井さんが行ったパリ——

自分の初めてのヨーロッパもパリだった。

あの時代のパリに憧れる。

自分はドイツで長く制作していたけど

遠い異国で謳歌する自由、その自由な魂から生まれる
絵というのがある。

茂田井さんのパリの画帳にも、その自由さを感じる。」

1930年、21歳の春に、茂田井は鞆一つで欧州放浪の旅に出ます。滞在先のパリやジュネーブで、夜毎心に留まった光景や人物、夢の断片を絵日記風に描きためた画帳「Parisの破片」や「続・白い十字架」を展示します。



9. 「幼年画集」より 1946-47年

「茂田井さんはバランス感覚がいい。

優等生の絵じゃないし、子どもの絵でもない。

やさしい大人の心を持って描いている。」

3人の子の父親となった茂田井にとって、子どもは神秘であり、インスピレーションの源でした。狭い画室の壁中に貼られていたという童話やおもちゃの絵には、あたたかな父の想いが宿っています。奈良は、反故にした絵の裏に子どもたちが描いた絵も、愛おしそうに選んでいます。



10. クマ、ジープ、デンジャ、ハネ 1949年



11. 『セロひきのゴーシュ』(福音館書店)より 1956年



* 詳細は、ちひろ美術館ホームページでご案内します。イベント参加費の他、別途入館料が必要です(高校生以下は入館料無料)。 定員、参加費が記載されていないものは、参加自由、無料です。

奈良美智がつくる茂田井武展 夢の旅人 関連イベント

●講演会「茂田井武と夢の旅」

絵本作家・評論家として活躍する講師が、茂田井武の絵と旅と人生について語ります。

6/24 (土) 15:00~16:30 講師: 広松由希子 (絵本家)
定員: 60名 参加費: 1000円 *要申し込み 5/24 (水) 受付開始



撮影/黒澤義教

参加自由・無料のイベント

●松本猛ギャラリートーク

ちひろの息子である松本猛が、作品にまつわるエピソードなどを、お話しします。

6/4 (日) 14:00~
講師: 松本猛 (絵本学会会長・ちひろ美術館常任顧問)

●ギャラリートーク

毎月第1・3土曜日 14:00~

●えほんのじかん

協力: ねりま子ども本ネットワーク

毎月第2・4土曜日 11:00~

●わらべうたあそび

声を出して歌ったり、体を動かしたりしながら、親子で楽しく参加できます。

7/1 (土) 11:00~11:40

講師: 服部雅子 (西東京市もぐらの会代表、はとさん文庫主宰)

対象: 0~2歳までの乳幼児と保護者

定員: 15組30名

*要申し込み 6/1 (木) 受付開始

高畑勲がつくるちひろ展 ようこそ! ちひろの絵のなかへ 関連イベント

●ちひろの絵のなかに入って撮影できます!

「高畑勲がつくるちひろ展」では、展示室4の大きくなったちひろの絵の前で写真撮影ができます。Instagramやtwitterで#chihirotのハッシュタグをつけて投稿していただいた写真は、公式サイトでご覧になれます。



●ちひろの水彩技法体験ワークショップ

いわさきちひろが得意とした水彩技法の「にじみ」を体験し、缶バッジをつくります。(制作所要時間20~30分)

7/21 (金) ~ **23** (日) 10:30~15:00 (入れ替え制)

定員: 各日80名 (当日先着順) 参加費: 200円



開館40周年・20周年記念対談

高畑勲(アニメーション映画監督)

× 奈良美智(美術作家)

今会期いわさきちひろ展と茂田井武展をつくるふたりが、当館の開館40周年、安曇野ちひろ美術館の開館20周年を記念して夢の対談を行います。

8/30 (水) 19:00~20:30 (予定)

会場: 紀伊国屋サザンシアター

チケット発売開始: 7月初旬 (予定)

<次回展示予定> 2017年8月24日(木)~11月5日(日)

開館40周年記念III

ちひろの詩 —絵は詩のように—

<企画展>

奇喜怪快 井上洋介の絵本展



井上洋介 『でんしゃえほん』(ピリケン出版)より
2000年

●夏休み子ども ギャラリートーク

「美術や美術館には興味がないけれど」「夏休みの宿題だから」と来館する小中学生の皆さん、ぜひ展示室でいっしょに作品を見てみましょう。

8/7 (月)・**8/14** (月)

各 11:00~14:00~

対象: 小中学生

* 展覧会名・会期・内容等は、予告なく変更する場合がございます。

● 展示会期…2017年5月19日(金)~8月20日(日)

● 開館時間…10:00~17:00(入館は閉館の30分前まで)

● 休館日…月曜日(祝休日は開館、翌平日休館。※8/1~8/20は無休)

● 入館料…大人800円/高校生以下無料

団体(有料入館者10名以上)、65歳以上の方、学生証をご提示の方、公式WEBサイト割引特典提示の方は700円/障害者手帳ご提示の方は400円、介添えの方は1名まで無料/視覚障害のある方は無料/年間パスポート2500円

● 交通…西武新宿線 上井草駅下車徒歩7分

○ JR中央線荻窪駅より西武バス石神井公園駅行き(荻14) 上井草駅入口下車徒歩5分

○ 西武池袋線石神井公園駅より西武バス荻窪駅行き(荻14) 上井草駅入口下車徒歩5分

○ 駐車場あり(乗用車3台・身障者用1台)



公益財団法人いわさきちひろ記念事業団
ちひろ美術館・東京

<http://www.chihiro.jp/>

お問い合わせは、広報担当: 北村・中平・武石まで

〒177-0042 東京都練馬区下石神井4-7-2 テレホンガイド 03-3995-3001 03-3995-0612(代表) FAX 03-3995-0680